

令和6年中に発生した 長万部町の 交通事故を分析



ストップ・ザ・交通事故
めざせ 安全で
安心な北海道

運転者には、車を運転する中で起こりうる状況を予測しながら、危険を回避することが求められています。

しかし、交通事故の多くは運転者のほんのわずかな不注意によって発生し、予期せぬ悲劇を生んでいます。被害者になって加害者になっても一瞬のうちに幸せな家庭を崩壊させてしまうのが交通事故です。

全国の交通事故死者数は、統計が始まった昭和23年以降3番目に少ない2,663人で昨年より15人減少となりました。

最も多かった昭和45年の1万6,765人と比べて6分の1以下となりました。

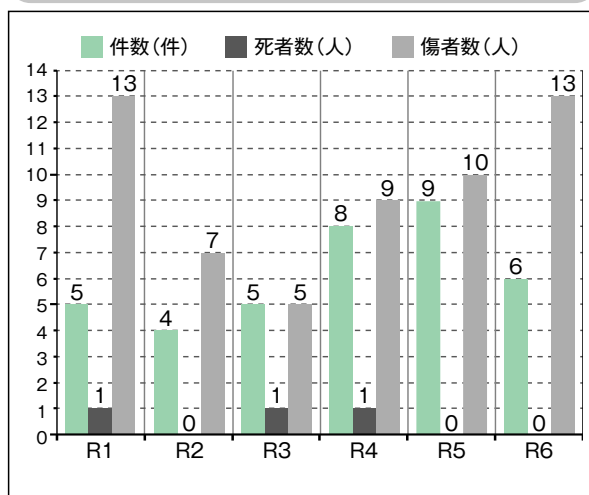
北海道においても、交通事故死者数は前年より27人減少し、104人と順位を四つ下げて全国ワースト8位と好転しております。

道内では多くの方が交通事故の犠牲となっており、特に飲酒運転による事故が後を絶ちません。また、高齢者の事故も多く見受けられます。

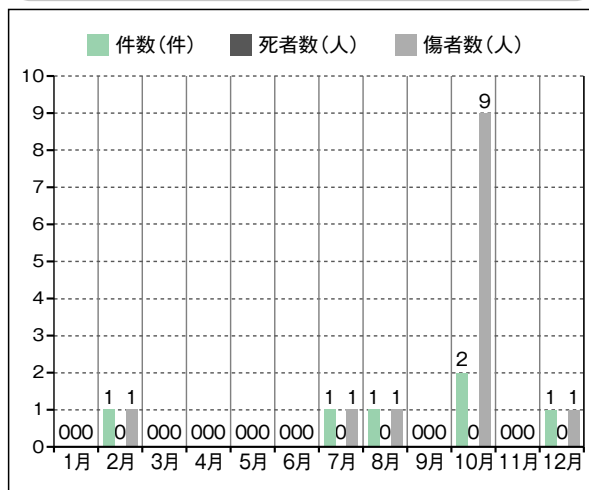
悲惨な交通事故の犠牲者を一人でも減少させるため、飲酒運転は厳禁、スピードは控えめに、車間距離を十分にとり前方を確認し、ブレーキは早めに掛け衝突を回避するよう努めましょう。

今月号では、交通事故撲滅の願いを込めて、昨年一年間に私たちの町で発生した交通事故を分析してみました。

年別町内発生交通事故の推移



月別町内発生交通事故の推移



死亡事故ゼロで 事故件数減少

長万部町内で昨年発生した交通事故は前年と比べて3件減少し6件、傷者数は13人、死者数は0人で死亡者数ゼロ日数は933日継続しました。

北海道全体における交通事故死者数は、前年と比べて27人少ない104人となりました。

減少の要因は車の安全性の向上や道路の改良、悪質な交通違反の重点的な取り締り、歩行者とドライバーがそれぞれ互いに合図をしあう「ハンドサインでストップ運動」等、様々な要因が重なり合っていると考えられます。

交通事故の多くは 国道5号線で

道路別の発生状況では国道5号で4件、国道37号で2件発生しております。

比較的通しの良い道路であることが、速度の出し過ぎや無理な追い越し運転の原因になっていると考えられます。

また、一般的に事故を起こしやすい場所としては、市街地の信号機のない交差点、直線道路と比べて見通しが悪く、出会い頭の衝突や右折車と直進車の衝突事故などが発生しやすいため、このような場所を運転する際には、一時停止や徐行を心がけ十分注意しましょう。

安全運転義務違反が 事故の原因に

事故類型別の発生状況では人対車両が1件、車両相互が5件発生しています。

法令違反別の発生状況では、5件が安全運転義務違反により発生し、動静不注視による違反が1件発生しております。

ちよつとした気の緩み、わき見運転が大きな事故に繋がります。あなたと相手の一生を台無しにしてしまします。

便利な自動車も安全運転を怠ると、恐ろしい凶器になってしまいます。車を運転するときは、心に余裕をもって速度を抑え、十分な車間距離をとり、適度な緊張感をもって運転しましょう。

飲酒運転は、平穏な日常を一瞬で悲劇に変えてしまいます。

交通ルールを守らないと、事故に遭うだけでなく、事故を引き起こす可能性が高くなります。

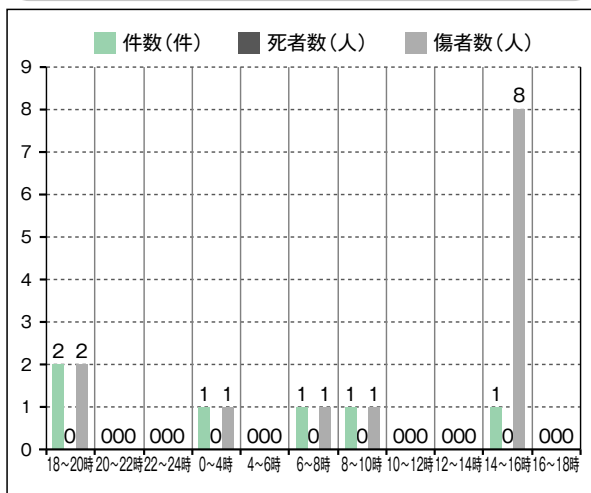
自分だけは大丈夫と思わず、交通ルールとマナーを守って事故のない社会を作りましょう。



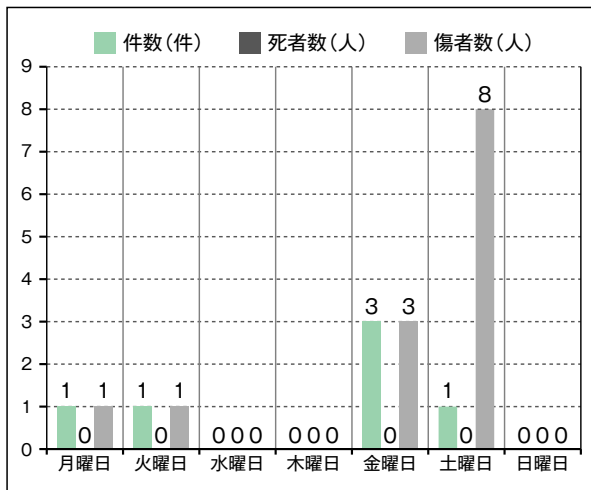
[] 事故件数・傷者数

道 路 別	事 故 類 型 別	法 令 違 反 別	通 行 目 的 別
■ 国道 ・ 5号線 [4件・11人] ・ 37号線 [2件・2人] ■ その他道路 [0件・0人]	■ 人対車両 [1件・1人] ■ 車両相互 ・ 正面衝突 [2件・9人] ・ 追突 [3件・3人]	■ 安全運転義務違反 ・ 前後方不注意 [2件・2人] ・ 後方不確認 [1件・1人] ・ 過労運転 [1件・8人] ・ 交差点安全通行 [1件・1人] ■ 動静不注視 [1件・1人]	■ 業 務 [2件・2人] ■ 通 勤 [1件・1人] ■ 観光・娯楽 [1件・1人] ■ 帰 省 [1件・1人] ■ 送 迎 [1件・8人]

時間別事故発生状況



曜日別事故発生状況



ゆとりを持った
安全運転で

時間別の発生状況では、6件中3件が日中、1件が早朝、2件が夜間に発生しております。曜日別では週末にかけての事故が多く、通行目的別では業務や通勤、その他(送迎)などで事故が発生しております。

目的は様々ですが、時間に余裕がないとスピードの出し過ぎや前方不注意などが多くなり、その結果、交通事故を起こす可能性が高くなります。運転する際には、体調を万全にし、時間的、精神的に余裕を持つことが大切です。

疲れたときには
こまめな休憩を

長時間の運転は、疲れが蓄積されやすく、その結果漫然運転や最悪の場合は居眠り運転につながります。

車の運転は、前方の標識から手元の機器類まで絶えず目を動かすため、ピントを合わせる眼の筋肉が疲れてきます。この疲れが蓄積し、全身の疲れに繋がります。

これを防ぐために1〜2時間おきにこまめな休憩を取り、運転席から降りて外の空気を吸いながら、軽めの体操などを行いましょう。

高齢者の事故が
増えています

全国的に高齢化が進み、高齢者が巻き込まれる事故が増えています。高齢ドライバーへの思いやりを持った運転や高齢歩行者を見かけたら減速するなど、高齢者の動きに対応できるような運転を心がけましょう。

また、高齢者の交通事故は夕方から夜にかけて多く発生する傾向がありますので、十分注意しましょう。

運転に自信が無くなった家族から「運転が心配」と言われるようになった場合は、運転免許証の自主返納を考えましょう。